

第9分科会 技術・職業教育の実践

工藤 英太郎

一 はじめに

本分科会は中学・技術教育と高校職業教育（農業・工業・商業・水産など）の参加者が中心となり、共同研究者の倉部先生、上原先生、佐々木先生と司会者の樋上先生、工藤が中心となり構成されています。レポート発表で小樽未来創造高校・清水先生や中学技術より厚沢部中学校・内糸先生より報告がありました。

今年度の特徴として、遠隔参加と現地参加を織り交ぜた分科会が開催できました。本部には感謝申し上げます。研究課題は以下です。

技術・職業教育をめぐる状況

- ① 生徒を取り巻く状況(学習・生活・進路)
- ② 教育条件の整備と北海道の教育政策
- ③ 学校間連携・地域と連携
- ④ 技術・職業教育とキャリア教育
- ⑤ 技術職業と進路問題

教育実践と学校づくり

- ① 中学校の教育実践（技術科）
- ② 高等学校の実践教育
（専門学校・総合学科・普通科）
- ③ 職業教育・職業訓練と学力保障

二 レポート報告

1 「写真で法律を考える」2024

岩見沢緑陵高等学校 倉部 静雄

グーグルクラスルームを利用して、課題をわかりやすく例示し、その報告は3点です。「憲法を写真に(2024春)」「民法を写真に(2024夏)」「選挙を写真に(2024秋)」で、今年度は新たに、鑑賞後、誰の写真がよかったかを投票で行った。特に選挙においてはこの経験で期日前投票や当日の投票に行く生徒もいたようです。投票証明書をもたらってくる生徒や「空箱確認」をする生徒もいた。

普通科を中心に法教育の必要性が言われ、労働教育の必要性が言われるなど、この「ビジネス法規」という科目が商業科の中で全員履修される存在であって欲しいとまとめた。

2 工業高校が地域と結びつくために

～おもちゃの修理屋さんと養護学校研修会～

北海道旭川工業高等学校定時制 樋上 諭

定着したおもちゃの修理について2024年夏休みには、旭川養護学校に障害者用タブレット特注スイッチを提供し交流を深めることができた報告です。

おもちゃの修理活動については旭川市との共同でこれからも続け、旭川養護学校との取り組みも2年目で担当者も決まったとのこと。ほかの学校にも広げればとまとめた。

3 樽末創杯コマ選手権のとりくみ

北海道小樽未来創造高等学校 清水 正貴

ものづくりの面白さを伝えるのに改善するべく、樽末創杯コマ選手権を企画した。ロングスピンドル部門・デザイン部門に分け、実習がスタートした。切削途中につまみが折れたり、材料が吹っ飛んでしまったりするなど試行錯誤していたようである。楽しそうに取り組む生徒の様子を下級生も見て、選択者も増えたとのこと。その点では「ものづくりの楽しさを伝えたい」という目的が達成されつつあるとのこと。

4 資格取得と進路指導

北海道釧路商業高等学校 工藤 英太郎

様似高校・小樽商業定時制・福島商業・釧路商業での経験を踏まえ、現任校での経験を報告。検定取得率が低い割には就職率が高い分析は必要であるが、事務職に就職する場合はやはり検定取得が有利に働くデータは明確になった。

5 ものづくり教育は不要？

厚沢部町立厚沢部中学校 内糸 俊男

技術分野において、評価、選択、管理・運用、改良、応用のレベルに到達するためには、①生徒の発達段階や技能の習得状況に合わせた材料選択の在り方 ②加工学習の実体験から得る成就感を感受させるための工夫が必要であると、次の例を挙げている。「ひもへび」はかつてより完成度が低くなったが、製作マニュアルの改訂で作品を短くし、プレゼンテーションソフトを用いると技術が向上した。

技術分野は製作を通して過程を創意工夫し、技能を体得するものであると述べており、それがものづくり教育の原点であるとまとめた。